

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
京都ホテル観光ブライダル専門学校		平成26年6月11日		田中 幹人		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人大和学園		昭和29年5月28日		理事長 田中 誠二		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程		ブライダル学科 プランナー・スタイリスト専攻		平成22年文部科学大臣告示 第152号		—		平成26(2014)年度		
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に基づき、ホテル分野の教育を施し、以下に示す時代の養成に応え得る専門知識及び技能と態度・姿勢を習得させるとともに、教養豊かな職業人の育成を図ることを目的とする。 1. 国際文化観光都市・京都で豊かな感性を学び、人を感動させ、幸せを与えることができるホスピタリティマインド(おもてなしの心)を身につけている。 2. ホスピタリティ業界で活躍し続けるために、リーダーシップを発揮し、目標に向かってやり遂げる力を身につけている。 3. 相手の意図をくみ取り、論理的に分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身につけている。 4. グローバル社会や環境の変化に柔軟に対応し、ICTの利活用やDXを推進することで企業利益につなげる創造力を身につけている。 5. 専門知識や技術、取得した資格を企業や業界の成長・発展に貢献する実践力を身につけている。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		◆取得可能な資格:ブライダルコーディネーター技能検定3級、色彩検定、ジュエリーコーディネーター検定、レストランサービス技能検定、サービス接客検定など ◆中途退学者:4名(中退率5.8%)									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,730 単位時間	705 単位時間	945 単位時間	80 単位時間	単位時間	単位時間	
					単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
140 人	105 人		0 人		0 %						
就職等の状況	■卒業者数(C)		33		人						
	■就職希望者数(D)		29		人						
	■就職者数(E)		29		人						
	■地元就職者数(F)		6		人						
	■就職率(E/D)		100		%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		21		%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88		%						
	■進学者数		0		人						
	■その他										
	就職希望していない4名は、家事手伝い・アルバイト継続等										
(令和 5 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)											
■主な就職先、業界等											
(令和5年度卒業生)											
株式会社ベスト・アニバーサリー、株式会社ペリテ、ヒルトン京都、マリアージュ彦根、株式会社アルカンシエル、株式会社アスピカ、株式会社ヴァンドームヤマダ、株式会社日比谷花壇、株式会社 NIHO、株式会社 クラウドディアコスチュームサービス、株式会社グレースフジミ、プリモ・ジャパン株式会社、株式会社トレセンテ、株式会社シーマ、株式会社沙羅双樹、株式会社 フォーシス アンド カンパニー、株式会社エイジェイクリエーション、株式会社光貴、株式会社ファイン・プランニング、株式会社夢楽染、ORIENTAL KYOTO SUZAKU-TEI 朱雀邸、株式会社圭目金屋、マリアージュグランデ、都ホテル京都八条、医療法人社団坂田医院皮膚科											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無						
	評価団体:				受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.kyoto-carriere.ac.jp/dpt_bridal/										
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)										
	総授業時数					1,730 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					50 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数					165 単位時間					
	うち必修授業時数					1,730 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					50 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					165 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					50 単位時間					
	(B: 単位数による算定)										
	総授業時数					単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位						
うち必修授業時数					単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者					(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					7 人
	② 学士の学位を有する者等					(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					17 人
	③ 高等学校教諭等経験者					(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位					(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					1 人
	⑤ その他					(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					5 人
	計										30 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数										25 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
我が国のホスピタリティ産業の次代を担うホテル、ブライダル及び旅行の各スペシャリスト養成教育の質的向上に貢献するため、教育課程編成委員会の委員として産業界、企業等の役職員を選出し、企業等の様々な意見や要請などを十分に活かしながら、実践的かつ専門的そして、先駆的な職業教育モデルを構築し、中核的専門人材の養成教育を展開する。また、学生のインターンシップやアルバイト、就業先への定期的な訪問やセミナー、講座などによる招聘時に人事や営業担当の方々に対してヒアリングを行い、各授業科目の開設や内容などの改善・工夫などに活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、学則第25条で示すとおり、教職員および企業等の役員または職員その他必要な委員をもって構成している。委員会では、教育する分野における人材の専門性に関する動向を十分に把握・分析し、関係業界の要請等を活かした実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、教育課程のカリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項について提言し、その内容は、簡潔かつ明瞭に取りまとめ、本校の関係教職員で構成させるカリキュラム検討委員会に報告する。そして、最終的には、校長及び専任の教員をもって構成される教員会の審議を経て校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西村 直樹	全国宴会支配人協議会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	①
船橋 香菜	株式会社スタイルズ 営業統括本部 ヒューマンリソース室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
田中 幹人	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
作岡 友樹	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長代行	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
奥山 勉	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・ホテル学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
高岡 良明	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・広報渉外部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
加藤 純子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 ブライダル学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
山下 裕明	京都ホテル観光ブライダル専門学校 ブライダル学科 主任	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
辻 智子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 就職部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
楠井 秀和	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
桐澤 彩花	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、9月)
(開催日時(実績))
第1回 令和6年6月6日(木) 15:30～17:00
第2回 令和6年9月11日(水) 13:00～14:15 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況(昨年の委員会から)

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2回の教育課程編成委員会にていただいた提言を元に、本校におけるカリキュラム検討委員会、教員会にて審議し、取り入れたものは以下のとおり。

- 現場でのクレーム対応を学習する内容があると良い⇒クレーム耐性については「ブライダルカウンセリング演習」「ブライダルセールス」で、全体的な耐性は「社会人基礎力Ⅰ・Ⅱ」で身につけさせたい。
- コロナ禍でマーケットが変わり、ブライダルに対する意識が多様化していることに対する対応が必要⇒各授業の中で、マーケットや価値観の変化を伝えるようにしている。また、旅行や指輪、新居等人それぞれの優先順位があることを伝えるようにする。
- 自身のキャリアについて考える科目について⇒「キャリアデザイン」を通年で実施する。また、「ブライダル業界研究」でも考えさせるようにする。
- 海外ウエディングの需要が円安の影響で減少しているが、希望している方は一定数いるはず。学習する機会は⇒「リゾートウエディング」で取り扱っており、今後も科目としては継続していきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が業界や職種について理解し、一人前の職業人となるために、現場経験が豊富でキャリアモデルとして学生の手本となるような講師を紹介いただける企業と連携を行っている。また、派遣いただいた講師には本校の施設設備を活用しながら、業界の最先端の動向を指導いただくとともに、担当科目において業界で必要とされる最低限の知識・技能を身につけたか、学修成果の評価を行っていただける企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

一般教養科目、専門教養科目、コミュニケーション科目、語学科目のそれぞれの科目において、各企業から講師を招き、理論とともに実習・演習を交えて、目指すべき職業に必要とされる高度な実践力と豊かな創造力を養う授業展開を行っている。学修成果については、それぞれの科目において、学習態度、提出課題、出席などととも試験を行い、一人ひとり成績評価している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく働くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	J&Jヒューマンソリューションズ クラウドディアコスチュームサービス 橋立ベイホテル HOTEL THE MITSUI KYOTO
ホスピタリティセミナー	分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力のひとつ「課題対応能力」の醸成につなげます。	バリューマネジメント C&G Value Design パソナグループ
ブライダル業界研究	本科目ではブライダル業界の職種・関連企業について研究を行い、今後の就職活動に役立てるとともに、実際のゲストハウスへ行き研究を深めます。またブライダル企業で活躍している卒業生・企業の方を招聘したセミナーを行うことで、在学中に何をすれば良いかについて理解し、就職活動に活かします。	ORIENTAL KYOTO SUZAKU-TEI朱雀邸 (株)セレマ (株)プリモジャパン Keiichiro Matsuo Photography (株)ヴルーメン
ブライダルコスチュームⅡ	昨今SNSなどの普及によりお客様の知識と意識も上がり、形にとらわれない結婚式が増えています。実際の現場でのお客様の傾向や流行を知り、基礎知識を身につけ、衣装を通して現場で役立つ接客を学習します。	(株)クラウドディアホールディングス (株)ノバレーゼ (株)アルカンシエル (株)スタイルズ (株)リクルート 総数:14
ブライダルインターンシップⅠ	ホテルまたはブライダル施設における1週間(42.5時間)の実習を通して、業界で必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、業界人として従事する上で具備すべき知識および技能を修得する。	しょうざん KIYOMIZU京都東山 マリアージュグランデ インスタイルウエディング京都 二条城チャペル セント・アベニール 総数:26

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 FD(ファカルティ・ディベロップメント)による職能開発や人間的魅力の向上を図り、その成果をクライアントに還元するための研修を実施することを目的とし、集合研修、派遣研修、OJT研修、通信教育を受講する機会を設けており、コンプライアンスマニュアルの「研修規程」に定めている。 集合研修は、対象教職員を一堂に集め、内部または企業等からの外部講師により、その能力向上のために実施するものであり、「育成計画研修」「職務別研修」「リーダー研修」「人権研修」の4つの区分に基づいた研修計画を立て、教職員一人ひとりの能力の向上が学校全体の力になるよう取り組んでいる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: アフターコロナ時代の学生募集考察	連携企業等: 京都府専修学校各種学校協会	対象: 職員1名
期間: 2023年7月20日(木)		
内容: リアル接点の重要性とSNS,Webとのハイブリッド広報について		
研修名: 授業力向上研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員1名
期間: 2023年8月25日(金)		
内容: 模擬授業を通して魅力ある授業を考える		
研修名: Wedding-UP DAY 2023	連携企業等: 株式会社ウエディングパーク	対象: 教員2名
期間: 2023年9月12日(火)		
内容: あなたが仕事上でもっとも挑戦した“ My Best Challenge ”		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会兵庫大会	連携企業等: 全国専修学校各種学校協会	対象: 教員1名
期間: 2023年7月24日(月)		
内容: 各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名: 情報化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員7名、職員4名
期間: 2023年8月31日(木)		
内容: ChatGPTに触れてみよう		
研修名: グローバル化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員3名、職員3名
期間: 2023年8月28日(月)		
内容: 留学生受け入れ体制の充実に向けて		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 就職指導研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員3名
期間: 2024年8月27日(火)		
内容: キャリアコンサルティング実践		
研修名: ホスピタリティ・マネジメント研究会	連携企業等: ホスピタリティインダストリー研究所	対象: 教員1名
期間: 2024年11月		
内容: 未定		
研修名: BIA教職員セミナー	連携企業等: 公益社団法人日本プライダル文化振興協会	対象: 教員1名
期間: 2025年3月		
内容: 未定		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会大阪大会	連携企業等: 全国専修学校各種学校協会	対象: 職員1名
期間: 2024年7月24日(水)		
内容: 各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名: 教育の最前線	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員10名
期間: 2024年8月27日(火)		
内容: 発達障害の学生への理解と支援		
研修名: グローバル化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	対象: 教員3名、職員3名
期間: 2024年8月28日(水)		
内容: 留学生の現状とストレス要因の理解と対策		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、企業等の役職員および卒業生で組織される学校関係者評価委員会を設置している。この委員会は、本校が経営の現状と課題について適切に把握し、教育活動及びその他学校運営の改善を的確に行おうとしているかについて、客観的に評価することを目的としている。評価結果やいただいた意見に対する改善方法について、今後の教育活動及びその他学校運営に活かしていくとともに、ホームページに掲載し広く社会に公表することにより多くのステークホルダーの理解促進や提携協力につなげ、さらなる学校運営の改善を図っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規程等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・ 学生相談に関する体制は整備されているか ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ・ 学生の生活環境への支援は行われているか ・ 保護者と適切に連携しているか ・ 卒業生への支援体制はあるか ・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・ 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・ 学生募集活動は、適正に行われているか ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・ 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・ 財務について会計監査が適正に行われているか ・ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・ 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- 「デジタル化の浸透」に向けて、学生に対するICT教育の対策について⇒「ICTソリューション」の科目でインターネットの活用方法や情報モラル、Word、Excelなどを活用できる力を身に付けさせる。
- 同窓会員の交流、同窓会主催の研修や卒業後サポートの充実を図るべき⇒今後、同窓会定期総会などを通じて、検討していきたい。
- コロナ禍を経験した学生は上下関係を学ぶ機会を奪われてきた、その対策は⇒様々な授業の中で学生の意見を引き出し、発言のしやすい授業展開や学生指導をしていきたい。
- 京都の学校であるからこそ、京都についてどれだけ知っているか、また、知ろうとするアクションを期待したい⇒「京都を遊ぶチームビルディング演習」の授業で学科横断型で実施し、京都の魅力をテーマにグループワークを行い、フィールドワークなども取り入れている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
麻生 周治	ヒルトン 西日本地区統括人事部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
船橋 香菜	株式会社スタイルズ 営業統括本部 ヒューマンリソース室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
田中 中秋	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 執行役 員 エリアマネジメント部長 大阪・関西万博推進統括	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
島崎 貢	京都ホテル観光ブライダル専門学校 同窓会 副会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
辻本 剛久	京都西山高等学校 教頭	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者
今村 仁	京都両洋高等学校 学習進路指導統括部 第二学習センター長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/greeting/evaluation.html>

公表時期: 令和6年10月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の業界関係者をはじめ、本校のステークホルダーである保護者、高校の教員、卒業生等に対し、透明性を持って説明責任を果たすためにホームページを通じて、教育活動や学校運営に関する情報を積極的に発信する。また、「教育事業そのもので社会に貢献していく」という考えを軸に取り組んできたCSV活動や行政・地域・企業との連携によるSDGs推進活動を中心に学園の概要とあわせて「ホスピタリティ・レポート」としてまとめ、ホームページに掲載する。さらに財務諸表や教職員データ等は「大和学園データ集」として詳細を公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	● 理念・ビジョン ● アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー ● 校長名、所在地、連絡先等 ● 学校の沿革
(2) 各学科等の教育	● 入学者数、収容定員、在学学生数 ● カリキュラム ● 卒業要件 ● 取得資格、取得を目指す資格・検定 ● 資格取得、検定合格等の実績 ● 卒業者数、卒業後の進路(主な就職先)
(3) 教職員	● 教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	● キャリア教育の取組状況 ● 実習・実技等の取組状況 ● 就職支援等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	● 学校行事の取組状況 ● 課外活動(サークル活動等)
(6) 学生の生活支援	● 学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	● 学費、納入時期等 ● 奨学金等
(8) 学校の財務	● 資金収支計算書、収支収支計算書
(9) 学校評価	● 自己評価 ● 学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	● 留学生の受入状況 ● 留学生募集要項
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/>

公表時期: 令和6年10月

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 プライダル学科プランナー・スタイリスト専攻)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			自己分析	自分自身の強みや能力を再発見し、就職活動を通じてアピールできる表現を見つけます。また、仕事をする目的を理解し、今後の就職活動にむけて必要な準備をします。	1・前	30		○			○			○	
2	○			キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく動くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	1・前	30		○			○			○	○
3	○			グループディスカッション演習	初対面でも自らコミュニケーションを図る積極性を養います。コミュニケーションワークやグループディスカッションを実施することで、緊張感を和らげ人前で発言することが楽しくなる実践力の向上を目指します。	1・前	30			○		○			○	
4	○			美しい所作演習	「ホスピタリティマインド」は、形として表現されてはじめて相手に伝わります。一人一人の持てる秘めた魅力を引き出しそれを表現できるよう様々な角度から指導いたします。	1・前	30			○		○				○
5	○			京都を遊ぶチームビルディング演習	入学間もないみなさんの、交流を生み出すきっかけづくりとしてのチームビルディングや、キャンパスを出て、町の動きの只中で学ぶ「フィールドワーク」を取り入れながら授業を進行します。毎回の授業はグループワーク、プレゼンテーションを中心にすすめます。	1・前	30			○		○			○	
6	○			ビジネスマナー演習	日本のビジネスシーンにおける習慣やマナーを身につけることで、職場での良好な人間関係を築くことができます。日本のコミュニケーションの特徴と、日本のビジネスシーンでの一般的なマナー、およびホテルや旅行、飲食、製菓業界での基本的なマナーを実践的に学びます。	1・前	30			○		○				○
7	○			プレゼンテーション演習Ⅰ	「自己分析」の講義内容と連携し、自己理解を深めながら、自分の個性やホスピタリティマインドに自信をもち、それを他者にわかりやすく伝える基本的な力を培います。	1・前	30			○		○				○
8	○			サービス接遇演習Ⅰ	ビジネスが成立するためには、お客さまが満足すること、お客さまに役立つ「価値」を提供する必要があります。そのために、お客さま対応の現場で、お客さまに対してどのような貢献ができるかを考え、実行するための「サービスマナー」を身につけます。	1・前	30			○		○				○
9	○			ICTソリューションⅠ	「ICT」とは Information & Communication Technology（情報通信技術）のこと、この科目では社会生活で求められる情報活用能力を身につけます。情報を正しく判断する能力である「情報モラル」やインターネットを安心して利用するための「情報セキュリティ」に関する知識を習得します。	1・前	30			○		○				○
10	○			キャリアデザインⅡ	自身の描いたキャリアを実現する力を身に付けるため、就職活動のプロセスやポイントを理解し、各セミナーにおいて、企業がどのような人材を求めているか、自分がこれから何をすれば良いかについて理解します。	1・後	30		○			○			○	○
11	○			ホスピタリティセミナー	分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力のひとつ「課題対応能力」の醸成につなげます。また、	1・後	30		○			○			○	○
12	○			プレゼンテーション演習Ⅱ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本知識と実践力を身に付けます。就職活動はもちろん、ビジネスワーカーに求められるプレゼンテーション技術と方法を習得し、自己PRをはじめとしたさまざまな質問に対して、自信をもって伝える力を養います。その他、企業さまへの電話演習も実践します。	1・後	30			○		○				○
13	○			サービス接遇演習Ⅱ	この授業では、前期の「サービスマナー演習Ⅰ」に続き、「真のサービスとは何か」を追求し、プラスαの接遇スキルを身につけます。毎週のニュースチェックを習慣化し、時事問題に対する意識を高め、就職活動やお客さまとの会話で発揮できる力を養います。	1・後	30			○		○				○
14	○			ICTソリューションⅡ	社会生活で求められる ICT 活用能力をさらに身につけるために、この授業では文書作成、表計算の実習、プレゼンテーションの作成を行います。また、Webサイトやモバイルの情報をアプリケーションで活用する方法も紹介していきます。パソコンを使い、自分のやりたいことを形にする力を身につけます。	1・後	30			○		○				○

15	○		ブライダル概論	将来、ブライダル業界で活躍し、大切なお客様の「ハレ」の日をお預かりするためには、様々な知識や経験が必要とされます。本科目ではビジネスとしてのブライダルの概略を把握し、ブライダル業界で活躍するために必要となる基本知識を理解していきます。	1・前	30		○			○			○		
16		○	ブライダル業界研究	本科目ではブライダル業界の職種・関連企業について研究を行い、今後の就職活動に役立てるとともに、実際のゲストハウスへ行き研究を深めます。またブライダル企業で活躍している卒業生・企業の方を招聘したセミナーを行うことで、在学中に何をすれば良いかについて理解し、就職活動に活かします。	1・前	30		○			○			○	○	
17	○		ホテル概論	ブライダル業界を目指す皆さんが、ホスピタリティの集合体と呼ばれるホテルサービスを学習し、インターンシップ実務研修に取り組むことで、将来ブライダル業界で必要とされる社会人基礎力を養います。	1・前	30		○			○		○			
18		○	ブライダルコスチュームⅠ	人生の中で最も輝く時間である結婚式。その晴れの日にお召しになる運命の一着のためにコスチュームの個々の要素を理解し、ドレスだけではなく和装、そしてアクセサリ・ウェディングベール・パンプス・ブライダルインナーまでトータルな専門知識を身につけ、ブライダルスタイリストのプロフェッショナルとして、お客様への提案力も身につきます。	1・前	30		○			○			○		
19	○		レストランサービス演習	この授業はホテルインターンシップ研修の事前指導と位置づけ、ホテルサービス実習室において、レストランや宴会等、料飲サービスに必要な知識や技術、立ち居振る舞いを身につけます。	1・前	30			○		○				○	
20		○	婚礼調理実習	フランス・日本料理で使用する基本的な食材の特徴と調理法を学び、婚礼に必要な調理用語の意味を学びます。また料理名の由来やコース料理の組み方及び特徴を理解し、現場で幅広く活躍できる専門知識を身につけます。	1・前	30				○	○		○			
21	○		HRS特講Ⅰ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。立ち居振る舞い、ビバレッジのサービス方法、外客をもてなす為の国際儀礼など、幅広い知識を学習します。	1・後	30		○			○		○			
22	○		カラーコーディネート	感覚的な色の捉え方だけではなく、体系的に色を分類し、色彩に関する基礎知識や色彩の心理効果を学びます。またワークを通して、色を楽しみながら、識別する色彩感覚や感性を磨き、配色調和を学習します。色彩検定3級合格のための基礎を固めます。	1・後	30		○			○			○		
23	○		ブライダルサービス	挙式、披露宴を中心とする婚礼商品に関連して提供される一連のサービスを「ブライダルサービス」と位置づけ、お客様の一生に一度というメモリアル性が強いブライダルの仕事に携わる者としての自覚と責任を持ち、感動や驚きを創出できる豊かな人間性とホスピタリティマインドを兼ね備えた人材となるために、サービス側の視点からブライダルビジネスにおける実務のあり方の基礎を学習します。	1・後	30		○			○		○			
24	○		ブライダルコスチュームⅡ	昨今SNSなどの普及によりお客様の知識と意識も上がり、形にとらわれない結婚式が増えています。実際の現場でのお客様の傾向や流行を知り、基礎知識を身につけ、衣装を通して現場で役立つ接客を学習します。	1・後	30			○		○			○	○	
25	○		レストランウェディングサービス演習	ホテルインターンシップ研修の振り返りを行い、自身に不足していたサービスの知識と技術を補う場とします。また2年次に挑戦する国家資格HRS検定に必要な料飲の基礎知識と技術を学習し、合格に向け更なるスキル向上を目指します。	1・後	30			○		○			○		
26	○		ブライダルインターンシップⅠ	ホテルまたはブライダル施設における1週間の実習を通して、業界で必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、業界人として従事する上で具備すべき知識および技能を修得する。	1・後	50				○		○			○	
27	○		社会人基礎力Ⅰ	就職試験の筆記対策として多くの問題を解き、筆記試験に対する自信を強化します。また、試験対策だけではなく社会人として、ブライダル業界人として必要な知識の理解や、社内外で関わる多くの人とのコミュニケーションとして学びを深めます。	2・前	30		○			○			○		
28	○		HRS特講Ⅱ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。主に料飲接客サービスを学習し、後半では過去10年間の学科試験問題を行います。	2・前	30		○			○		○			
29	○		HRS特講Ⅲ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。学科試験の夏季集中講座としてより一層理解力を高めるために取り組みます。	2・前	30		○			○		○			
30	○		色彩検定特講Ⅰ	色彩検定3級合格を目指し、「色のはたらき」「光と色」「色の表示」「色彩心理」「色彩調和」「配色イメージ」「ファッション」「インテリア」について学びます。	2・前	30		○			○			○		

31	○		色彩検定特講Ⅱ	色彩検定3級合格を目指し、過去問模擬テストを使って検定対策を行います。色彩検定本試験で出題される問題の傾向と対策を掴み、出題の意図、解き方を理解し、3級合格に確実な実力をつけます。	2・前	15		○			○		○	
32	○		ブライダルマーケティング	ブライダルビジネスにおいて、重要な役割を担うマーケティング活動について体系的に学習します。	2・前	30		○		○		○		
33	○		ブライズビューティ	ブライダルに関する美容の専門知識と、ヘアスタイリング・メイクアップ・ネイル・エステティックなどの基本的な知識と技術、トータルコーディネートのセンスを学び、よりブライダル業界の仕事を理解すると共に、「結婚式は最高に綺麗な自分で臨みたい!」そんな花嫁たちの願いや思いを理解し、アドバイスまで出来るようになります。	2・前	30		○		○			○	
34	○		プレゼンテーション演習Ⅲ	今後の社会人生活で、必ずあるであろうプレゼンテーションの場面で、堂々と自分の考えを発表できるスキルを磨きます。より伝わりやすいボキャブラリーも増やし、多彩な表現力を身に付けます。単なる朗読ではなく、自分がどう「伝えた」かではなく、他者にどう「伝わったか」の重要性を理解し、ホスピタリティあふれるプレゼンテーションを2回の発表を通して構築します。	2・前	30		○		○			○	
35	○		デジタルコミュニケーション演習	ブライダル業界では急速なデジタル化が進み、SNSを中心としたマーケティング活動が不可欠となっております。また成約後はメールや、オンラインなどを活用したお客様とのコミュニケーションが求められます。様々なデジタルツールを活用したコミュニケーションスキルを習得します。	2・前	30		○		○		○		
36	○		和装着付・作法演習	日本人の美意識を育んできた着物文化、民族衣装である着物を通じて和の文化を体感します。着物の着付け、和の立ち居振舞を知ることで、特別な日の花嫁、親族の装いの手助け、アドバイスができるようになります。	2・前	30		○		○			○	
37	○		ウエディングパーティ演習Ⅰ	学生が相互にかつ積極的にコミュニケーションを取り合い協働することの大切さを学び、ウエディングパーティの迎賓から送賓までを再現、ウエディングパーティサービスをシミュレーション形式で習得いたします。	2・前	30		○		○			○	
38	○		社会人基礎力Ⅱ	社会に出て、サービス業や接客業など仕事をする上で必要となる各種社会人基礎力を、ワークを通じて実践的に習得します。さらに職場の人間関係を円滑にするため、上司やお客様との会話を想定しながら、さまざまなケーススタディに取り組み、コミュニケーション能力の向上を目指します。	2・後	30		○		○			○	
39	○		ダイバーシティ&インクルージョン演習	労働力不足やグローバル化への対応、日本型雇用慣行の破綻、世代間格差などの問題に対する解決策として、ダイバーシティ経営が期待されている一方で、「とりあえずダイバーシティ」の企業が多いことが課題である。様々な事例を知り考えることで、真の目的であるインクルーシブな組織に変えていくやり方を習得する。	2・後	30		○		○		○		○
40	○		ウエディングパーティ演習Ⅱ	実際の料理を使用し、ウエディングパーティサービスをシミュレーション形式で習得します。学生相互のコミュニケーションについても、ウエディングパーティ演習Ⅰと同様、積極的に取り組む意識を持ちます。	2・後	30		○		○			○	
41	○		ブライダルセールス	ブライダルセールスは単なる商品販売に留まらず、お客様の心の不安を取り除き、夢や期待に応えるための的確な提案、助言を行います。本科目ではブライダルマーケティング業務において、特に重要な役割を担う新規セールスについて演習形式で学習します。	2・後	30		○		○		○		
42	○		フラワーアレンジメント	ブライダルの演出に欠かせないフラワーアレンジメントの最先端の知識とテクニックを学び、シーンに合わせた花のセレクトや、個性の表現方法を身につけ現場レベルでの知識を養います。	2・後	15		○		○			○	○
43	○		ブライダルカウンセリング演習	業界人として、どの職種に就いても必要な「カウンセリング力」を身につけます。お客様の心に深く寄り添い、正確にお話しをお伺いする基本的な「傾聴力」の定着も図るとともに、言葉にできないご要望などもお伺いできる「質問力」を高めます。	2・後	30		○		○			○	
44	○	○	リゾートウエディング	海外ウエディングの内容、メリット、デメリット等を知ること、お客様に幅広い提案ができるようになります。本科目では海外のリゾートウエディングに焦点を当て、挙式の基本知識、それぞれのロケーションの魅力や特徴、費用などの知識を学習します。	1・後	30		○		○		○		
45	○		ジュエリーコーディネーター検定特講Ⅰ	本講は、一般社団法人 日本ジュエリー協会が認定するジュエリーコーディネーター検定3級合格を目指す対策講座です。3級検定合格で、ジュエリーに関わる社会人として、最低限必須の商品知識や専門知識を身につけられます。	1・後	30		○		○			○	

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
京都ホテル観光ブライダル専門学校		平成2年6月11日		田中 幹人		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人大和学園		昭和29年5月28日		理事長 田中 誠二		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		ブライダル学科 上級ブライダル専攻		平成22年文部科学大臣告示 第152号	—	平成26(2014)年度	
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に基づき、ホテル分野の教育を施し、以下に示す時代の養成に応え得る専門知識及び技能と態度・姿勢を習得させるとともに、教養豊かな職業人の育成を図ることを目的とする。 1. 国際文化観光都市・京都で豊かな感性を学び、人を感動させ、幸せを与えることができるホスピタリティマインド(おもてなしの心)を身につけている。 2. ホスピタリティ業界で活躍し続けるために、リーダーシップを発揮し、目標に向かってやり遂げる力を身につけている。 3. 相手の意図をくみ取り、論理的に分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身につけている。 4. グローバル社会や環境の変化に柔軟に対応し、ICTの活用やDXを推進することで企業利益につなげる創造力を身につけている。 5. 専門知識や技術、取得した資格を企業や業界の成長・発展に貢献する実践力を身につけている。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		◆取得可能な資格:ブライダルコーディネート技能検定3級・2級、色彩検定、レストランサービス技能検定、サービス接客検定など ◆中途退学者:0名(中退率0.0%)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,770 単位時間	615 単位時間	975 単位時間	180 単位時間	単位時間	単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
140 人	105 人		0 人		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		20 人					
	■就職希望者数(D)		20 人					
	■就職者数(E)		20 人					
	■地元就職者数(F)		6 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		30 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 5 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 株式会社スタイルズ、ホテルオークラ京都、株式会社ニューアート・シーマ、株式会社ブライトンコーポレーション/浦安ブライトンホテル東京ベイ、株式会社アルカンシエル、株式会社ノバレーゼ、株式会社レジーナミラ、株式会社リバースイートキョウトリバースイート京都鴨川迎賓館、株式会社 長楽館、株式会社エスクリ、株式会社マッシュ、株式会社フーエンス アンド カンパニー、株式会社光貴、株式会社ときわ、ブライダルハウス・オエ、ホテルグランヴィア京都、株式会社HIROTA、株式会社貞善(TAKAZEN)、株式会社ティクアンドギヴ・ニーズ						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.kyoto-carriere.ac.jp/dpt_bridal/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,770 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		50 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		165 単位時間					
	うち必修授業時数		1,730 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		50 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		165 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		50 単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総授業時数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
	うち必修授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		7 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		15 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		4 人			
	計				27 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				22 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

我が国のホスピタリティ産業の次代を担うホテル、ブライダル及び旅行の各スペシャリスト養成教育の質的向上に貢献するため、教育課程編成委員会の委員として産業界、企業等の役職員を選出し、企業等の様々な意見や要請などを十分に活かしながら、実践的かつ専門的そして、先駆的な職業教育モデルを構築し、中核的専門人材の養成教育を展開する。また、学生のインターンシップやアルバイト、就業先への定期的な訪問やセミナー、講座などによる招聘時に人事や営業担当の方々に対してヒアリングを行い、各授業科目の開設や内容などの改善・工夫などに活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学則第25条で示すとおり、教職員および企業等の役員または職員その他必要な委員を持って構成している。委員会では、教育する分野における人材の専門性に関する動向を十分に把握・分析し、関係業界の要請等を活かした実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、教育課程のカリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項について提言し、その内容は、簡潔かつ明瞭に取りまとめ、本校の関係教職員で構成させるカリキュラム検討委員会に報告する。そして、最終的には、校長及び専任の教員をもって構成される教員会の審議を経て校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西村 直樹	全国宴会支配人協議会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	①
船橋 香菜	株式会社スタイルズ 営業統括本部 ヒューマンリソース室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
田中 幹人	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
作岡 友樹	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長代行	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
奥山 勉	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・ホテル学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
高岡 良明	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・広報渉外部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
加藤 純子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 ブライダル学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
山下 裕明	京都ホテル観光ブライダル専門学校 ブライダル学科 主任	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
辻 智子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 就職部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
楠井 秀和	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
桐澤 彩花	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月6日(木) 15:30～17:00

第2回 令和6年9月11日(水) 13:00～14:15 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況(昨年の委員会から)

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2回の教育課程編成委員会にていただいた提言を元に、本校におけるカリキュラム検討委員会、教員会にて審議し、取り入れたものは以下のとおり。

- 現場でのクレーム対応を学習する内容があると良い⇒クレーム耐性については「ブライダルカウンセリング演習」「ブライダルセールス」で、全体的な耐性は「社会人基礎力Ⅰ・Ⅱ」で身につけさせたい。
- コロナ禍でマーケットが変わり、ブライダルに対する意識が多様化していることに対する対応が必要⇒各授業の中で、マーケットや価値観の変化を伝えるようにしている。また、旅行や指輪、新居等人それぞれの優先順位があることを伝えるようにする。
- 自身のキャリアについて考える科目について⇒「キャリアデザイン」を通年で実施する。また、「ブライダル業界研究」でも考えさせるようにする。
- 海外ウエディングの需要が円安の影響で減少しているが、希望している方は一定数いるはず。学習する機会は⇒「リゾートウエディング」で取り扱っており、今後も科目としては継続していきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が業界や職種について理解し、一人前の職業人となるために、現場経験が豊富でキャリアモデルとして学生の手本となるような講師を紹介いただける企業と連携を行っている。また、派遣いただいた講師には本校の施設設備を活用しながら、業界の最先端の動向を指導いただくとともに、担当科目において業界で必要とされる最低限の知識・技能を身につけたか、学修成果の評価を行っていただける企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

一般教養科目、専門教養科目、コミュニケーション科目、語学科目のそれぞれの科目において、各企業から講師を招き、理論とともに実習・演習を交えて、目指すべき職業に必要なとされる高度な実践力と豊かな創造力を養う授業展開を行っている。学修成果については、それぞれの科目において、学習態度、提出課題、出席などとともに試験を行い、一人ひとり成績評価している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく働くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	J&Jヒューマンソリューションズ クラウドディアコスチュームサービス 橋立ベイホテル HOTEL THE MITSUI KYOTO
ホスピタリティセミナー	分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力のひとつ「課題対応能力」の醸成につなげます。	バリューマネジメント C&G Value Design パソナグループ
ブライダル業界研究	本科目ではブライダル業界の職種・関連企業について研究を行い、今後の就職活動に役立てるとともに、実際のゲストハウスへ行き研究を深めます。またブライダル企業で活躍している卒業生・企業の方を招聘したセミナーを行うことで、在学中に何をすれば良いかについて理解し、就職活動に活かします。	ORIENTAL KYOTO SUZAKU-TEI朱雀邸 (株)セレマ (株)プリモジャパン Keiichiro Matsuo Photography (株)ヴルーメン
ブライダルコスチュームⅡ	昨今SNSなどの普及によりお客様の知識と意識も上がり、形にとらわれない結婚式が増えています。実際の現場でのお客様の傾向や流行を知り、基礎知識を身につけ、衣装を通して現場で役立つ接客を学習します。	(株)クラウドディアホールディングス (株)ノバレーゼ (株)アルカンシエル (株)スタイルズ (株)リクルート 総数:14
ブライダルインターンシップⅠ	ホテルまたはブライダル施設における1週間(42.5時間)の実習を通して、業界で必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、業界人として従事する上で具備すべき知識および技能を修得する。	しょうざん KIYOMIZU京都東山 マリアージュグランデ インスタイルウエディング京都 二条城チャペル セント・アベニール 総数:26

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 FD(ファカルティ・ディベロップメント)による職能開発や人間的魅力の向上を図り、その成果をクライアントに還元するための研修を実施することを目的とし、集合研修、派遣研修、OJT研修、通信教育を受講する機会を設けており、コンプライアンスマニュアルの「研修規程」に定めている。 集合研修は、対象教職員を一堂に集め、内部または企業等からの外部講師により、その能力向上のために実施するものであり、「育成計画研修」「職務別研修」「リーダー研修」「人権研修」の4つの区分に基づいた研修計画を立て、教職員一人ひとりの能力の向上が学校全体の力になるよう取り組んでいる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：アフターコロナ時代の学生募集考察	連携企業等：京都府専修学校各種学校協会	
期間：2023年7月20日(木)	対象：職員1名	
内容：リアル接点の重要性和SNS,Webとのハイブリッド広報について		
研修名：授業力向上研修	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2023年8月25日(金)	対象：教員1名	
内容：模擬授業を通して魅力ある授業を考える		
研修名：Wedding-UP DAY 2023	連携企業等：株式会社ウエディングパーク	
期間：2023年9月12日(火)	対象：教員2名	
内容：あなたが仕事上でもっとも挑戦した“ My Best Challenge ”		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会兵庫大会	連携企業等：全国専修学校各種学校協会	
期間：2023年7月24日(月)	対象：教員1名	
内容：各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名：情報化推進研修	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2023年8月31日(木)	対象：教員7名、職員4名	
内容：ChatGPTに触れてみよう		
研修名：グローバル化推進研修	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2023年8月28日(月)	対象：教員3名、職員3名	
内容：留学生受け入れ体制の充実に向けて		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：就職指導研修	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2024年8月27日(火)	対象：教員3名	
内容：キャリアコンサルティング実践		
研修名：ホスピタリティ・マネジメント研究会	連携企業等：ホスピタリティインダストリー研究所	
期間：2024年11月	対象：教員1名	
内容：未定		
研修名：BIA教職員セミナー	連携企業等：公益社団法人日本プライダル文化振興協会	
期間：2025年3月	対象：教員1名	
内容：未定		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会大阪大会	連携企業等：全国専修学校各種学校協会	
期間：2024年7月24日(水)	対象：職員1名	
内容：各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名：教育の最前線	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2024年8月27日(火)	対象：教員10名	
内容：発達障害の学生への理解と支援		
研修名：グローバル化推進研修	連携企業等：大和学園(学内研修)	
期間：2024年8月28日(水)	対象：教員3名、職員3名	
内容：留学生の現状とストレス要因の理解と対策		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、企業等の役職員および卒業生で組織される学校関係者評価委員会を設置している。この委員会は、本校が経営の現状と課題について適切に把握し、教育活動及びその他学校運営の改善を的確に行おうとしているかについて、客観的に評価することを目的としている。評価結果やいただいた意見に対する改善方法について、今後の教育活動及びその他学校運営に活かしていくとともに、ホームページに掲載し広く社会に公表することで多くのステークホルダーの理解促進や提携協力につなげ、さらなる学校運営の改善を図っていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規程等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- 「デジタル化の浸透」に向けて、学生に対するICT教育の対策について⇒「ICTソリューション」の科目でインターネットの活用方法や情報モラル、Word、Excelなどを活用できる力を身に付けさせる。
- 同窓会員の交流、同窓会主催の研修や卒業後サポートの充実を図るべき⇒今後、同窓会定期総会などを通じて、検討していきたい。
- コロナ禍を経験した学生は上下関係を学ぶ機会を奪われてきた、その対策は⇒様々な授業の中で学生の意見を引き出し、発言のしやすい授業展開や学生指導をしていきたい。
- 京都の学校であるからこそ、京都についてどれだけ知っているか、また、知ろうとするアクションを期待したい⇒「京都を遊ぶチームビルディング演習」の授業で学科横断型で実施し、京都の魅力をテーマにグループワークを行い、フィールドワークなども取り入れている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
麻生 周治	ヒルトン 西日本地区統括人事部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
船橋 香菜	株式会社スタイルズ 営業統括本部 ヒューマンリソース室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
田中 中秋	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 執行役員 エリアマネジメント部長 大阪・関西万博推進統括	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
島崎 貢	京都ホテル観光ブライダル専門学校 同窓会 副会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
辻本 剛久	京都西山高等学校 教頭	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者
今村 仁	京都両洋高等学校 学習進路指導統括部 第二学習センター長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/greeting/evaluation.html>

公表時期: 令和6年10月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の業界関係者をはじめ、本校のステークホルダーである保護者、高校の教員、卒業生等に対し、透明性を持って説明責任を果たすためにホームページを通じて、教育活動や学校運営に関する情報を積極的に発信する。また、「教育事業そのもので社会に貢献していく」という考えを軸に取り組んできたCSV活動や行政・地域・企業との連携によるSDGs推進活動を中心に学園の概要とあわせて「ホスピタリティ・レポート」としてまとめ、ホームページに掲載する。さらに財務諸表や教職員データ等は「大和学園データ集」として詳細を公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	● 理念・ビジョン ● アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー ● 校長名、所在地、連絡先等 ● 学校の沿革
(2) 各学科等の教育	● 入学者数、収容定員、在学学生数 ● カリキュラム ● 卒業要件 ● 取得資格、取得を目指す資格・検定 ● 資格取得、検定合格等の実績 ● 卒業者数、卒業後の進路(主な就職先)
(3) 教職員	● 教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	● キャリア教育の取組状況 ● 実習・実技等の取組状況 ● 就職支援等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	● 学校行事の取組状況 ● 課外活動(サークル活動等)
(6) 学生の生活支援	● 学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	● 学費、納入時期等 ● 奨学金等
(8) 学校の財務	● 資金収支計算書、収支収支計算書
(9) 学校評価	● 自己評価 ● 学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	● 留学生の受入状況 ● 留学生募集要項
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/>

公表時期: 令和6年10月

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 プライダル学科上級プライダル専攻)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			自己分析	自分自身の強みや能力を再発見し、就職活動を通じてアピールできる表現を見つけます。また、仕事をする目的を理解し、今後の就職活動にむけて必要な準備をします。	1・前	30		○			○			○	
2	○			キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく働くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	1・前	30		○			○			○	○
3	○			グループディスカッション演習	初対面でも自らコミュニケーションを図る積極性を養います。コミュニケーションワークやグループディスカッションを実施することで、緊張感を和らげ人前で発言をすることが楽しくなる実践力の向上を目指します。	1・前	30			○		○			○	
4	○			美しい所作演習	「ホスピタリティマインド」は、形として表現されてはじめて相手に伝わります。一人一人の持てる秘めた魅力を引き出しそれを表現できるよう様々な角度から指導いたします。	1・前	30			○		○			○	
5	○			京都を遊ぶチームビルディング演習	入学間もないみなさんの、交流を生み出すきっかけづくりとしてのチームビルディングや、キャンパスを出て、町の動きの只中で学ぶ「フィールドワーク」を取り入れながら授業を進行します。毎回の授業はグループワーク、プレゼンテーションを中心にすすめます。	1・前	30			○		○			○	
6	○			ビジネスマナー演習	日本のビジネスシーンにおける習慣やマナーを身につけることで、職場での良好な人間関係を築くことができます。日本のコミュニケーションの特徴と、日本のビジネスシーンでの一般的なマナー、およびホテルや旅行、飲食、製菓業界での基本的なマナーを実践的に学びます。	1・前	30			○		○			○	
7	○			プレゼンテーション演習Ⅰ	「自己分析」の講義内容と連携し、自己理解を深めながら、自分の個性やホスピタリティマインドに自信をもち、それを他者にわかりやすく伝える基本的な力を培います。	1・前	30			○		○			○	
8	○			サービス接遇演習Ⅰ	ビジネスが成立するためには、お客さまが満足すること、お客さまに役立つ「価値」を提供する必要があります。そのために、お客さま対応の現場で、お客さまに対してどのような貢献ができるかを考え、実行するための「サービスマナー」を身につけます。	1・前	30			○		○			○	
9	○			ICTソリューションⅠ	「ICT」とはInformation & Communication Technology（情報通信技術）のこと、この科目では社会生活で求められる情報活用能力を身につけます。情報を正しく判断する能力である「情報モラル」やインターネットを安心して利用するための「情報セキュリティ」に関する知識を習得します。	1・前	30			○		○			○	
10	○			キャリアデザインⅡ	自身の描いたキャリアを実現する力を身に付けるため、就職活動のプロセスやポイントを理解し、各セミナーにおいて、企業がどのような人材を求めているか、自分がこれから何をすれば良いかについて理解します。	1・後	30			○		○			○	○
11	○			ホスピタリティセミナー	分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力のひとつ「課題対応能力」の醸成につなげます。また、	1・後	30			○		○			○	○
12	○			プレゼンテーション演習Ⅱ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本知識と実践力を身に付けます。就職活動はもちろん、ビジネスワーカーに求められるプレゼンテーション技術と方法を習得し、自己PRをはじめとしたさまざまな質問に対して、自信をもって伝える力を養います。その他、企業さまへの電話演習も実践します。	1・後	30			○		○			○	
13	○			サービス接遇演習Ⅱ	この授業では、前期の「サービスマナー演習Ⅰ」に続き、「真のサービスとは何か」を追求し、プラスαの接遇スキルを身につけます。毎週のニュースチェックを習慣化し、時事問題に対する意識を高め、就職活動やお客さまとの会話で発揮できる力を養います。	1・後	30			○		○			○	
14	○			ICTソリューションⅡ	社会生活で求められるICT活用能力をさらに身につけるために、この授業では文書作成、表計算の実習、プレゼンテーションの作成を行います。また、Webサイトやモバイルの情報をアプリケーションで活用する方法も紹介していきます。パソコンを使い、自分のやりたいことを形にする力を身につけます。	1・後	30			○		○			○	

15	○			ブライダル概論	将来、ブライダル業界で活躍し、大切なお客様の「ハレ」の日をお預かりするためには、様々な知識や経験が必要とされます。本科目ではビジネスとしてのブライダルの概略を把握し、ブライダル業界で活躍するために必要となる基本知識を理解していきます。	1・前	30		○		○				○	
16		○		ブライダル業界研究	本科目ではブライダル業界の職種・関連企業について研究を行い、今後の就職活動に役立てるとともに、実際のゲストハウスへ行き研究を深めます。またブライダル企業で活躍している卒業生・企業の方を招聘したセミナーを行うことで、在学中に何をすれば良いかについて理解し、就職活動に活かします。	1・前	30		○		○				○	○
17	○			ホテル概論	ブライダル業界を目指す皆さんが、ホスピタリティの集合体と呼ばれるホテルサービスを学習し、インターンシップ実務研修に取り組むことで、将来ブライダル業界で必要とされる社会人基礎力を養います。	1・前	30		○		○		○			
18		○		ブライダルコスチュームⅠ	人生の中で最も輝く時間である結婚式。その晴れの日にお召しになる運命の一着のためにコスチュームの個々の要素を理解し、ドレスだけではなく和装、そしてアクセサリー・ウェディングベール・パンプス・ブライダルインナーまでトータルな専門知識を身につけ、ブライダルスタイリストのプロフェッショナルとして、お客様への提案力も身につきます。	1・前	30		○		○				○	
19	○			レストランサービス演習	この授業はホテルインターンシップ研修の事前指導と位置づけ、ホテルサービス実習室において、レストランや宴会等、料飲サービスに必要な知識や技術、立ち居振る舞いを身につけます。	1・前	30			○		○				○
20		○		婚礼調理実習	フランス・日本料理で使用する基本的な食材の特徴と調理法を学び、婚礼に必要な調理用語の意味を学びます。また料理名の由来やコース料理の組み方及び特徴を理解し、現場で幅広く活躍できる専門知識を身につけます。	1・前	30				○	○		○		
21	○			HRS特講Ⅰ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。立ち居振る舞い、ビバレッジのサービス方法、外客をもてなす為の国際儀礼など、幅広い知識を学習します。	1・後	30		○			○		○		
22	○			カラーコーディネート	感覚的な色の捉え方だけではなく、体系論的に色を分類し、色彩に関する基礎知識や色彩の心理効果を学びます。またワークを通して、色を楽しみながら、識別する色彩感覚や感性を磨き、配色調和を学習します。色彩検定3級合格のための基礎を固めます。	1・後	30		○			○			○	
23	○			ブライダルサービス	挙式、披露宴を中心とする婚礼商品に関連して提供される一連のサービスを「ブライダルサービス」と位置づけ、お客様の一生に一度というメモリアル性が強いブライダルの仕事に携わる者としての自覚と責任を持ち、感動や驚きを創出できる豊かな人間性とホスピタリティマインドを兼ね備えた人材となるために、サービス側の視点からブライダルビジネスにおける実務のあり方の基礎を学習します。	1・後	30		○			○		○		
24	○			ブライダルコスチュームⅡ	昨今SNSなどの普及によりお客様の知識と意識も上がり、形にとらわれない結婚式が増えています。実際の現場でのお客様の傾向や流行を知り、基礎知識を身につけ、衣装を通して現場で役立つ接客を学習します。	1・後	30			○		○			○	○
25	○			レストランウェディングサービス演習	ホテルインターンシップ研修の振り返りを行い、自身に不足していたサービスの知識と技術を補う場とします。また2年次に挑戦する国家資格HRS検定に必要な料飲の基礎知識と技術を学習し、合格に向け更なるスキル向上を目指します。	1・後	30			○		○			○	
26	○			ブライダルインターンシップⅠ	ホテルまたはブライダル施設における1週間（42.5時間）の実習を通して、業界で必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、業界人として従事する上で具備すべき知識および技能を修得する。	1・後	50				○		○			○
27	○			社会人基礎力Ⅰ	就職試験の筆記対策として多くの問題を解き、筆記試験に対する自信を強化します。また、試験対策だけではなく社会人として、ブライダル業界人として必要な知識の理解や、社内外で関わる多くの人とのコミュニケーションとして学びを深めます。	2・前	30		○			○			○	
28	○			HRS特講Ⅱ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。主に料飲接客サービスを学習し、後半では過去10年間の学科試験問題を行います。	2・前	30		○			○		○		
29	○			HRS特講Ⅲ	国家技能検定試験である、「料飲サービス技能士」3級の合格を目指す授業です。学科試験の夏季集中講座としてより一層理解力を高めるために取り組みます。	2・前	30		○			○		○		
30	○			色彩検定特講Ⅰ	色彩検定3級合格を目指し、「色のはたらき」「光と色」「色の表示」「色彩心理」「色彩調和」「配色イメージ」「ファッション」「インテリア」について学びます。	2・前	30		○			○			○	
31	○			色彩検定特講Ⅱ	色彩検定3級合格を目指し、過去問模擬テストを使って検定対策を行います。色彩検定本試験で出題される問題の傾向と対策を掴み、出題の意図、解き方を理解し、3級合格に確実な実力をつけます。	2・前	15		○			○			○	

32	○		ブライダルマーケティング	ブライダルビジネスにおいて、重要な役割を担うマーケティング活動について体系的に学習します。	2・前	30			○		○		○				
33	○		ブライズビューティ	ブライダルに関する美容の専門知識と、ヘアスタイリング・メイクアップ・ネイル・エステティックなどの基本的な知識と技術、トータルコーディネートのセンスを学び、よりブライダル業界の仕事を理解すると共に、「結婚式は最高に綺麗な自分で臨みたい!」そんな花嫁たちの願いや思いを理解し、アドバイスまで出来るようにします。	2・前	30			○		○				○		
34	○		プレゼンテーション演習Ⅲ	今後の社会人生活で、必ずあるであろうプレゼンテーションの場で、堂々と自分の考えを発表できるスキルを磨きます。より伝わりやすいポキャブラリーも増やし、多彩な表現力を身に付けます。単なる朗読ではなく、自分がどう「伝えた」かではなく、他者にどう「伝わったか」の重要性を理解し、ホスピタリティあふれるプレゼンテーションを2回の発表を通して構築します。	2・前	30			○		○				○		
35	○		デジタルコミュニケーション演習	ブライダル業界では急速なデジタル化が進み、SNSを中心としたマーケティング活動が不可欠となっております。また成約後はメールや、オンラインなどを活用したお客様とのコミュニケーションが求められます。様々なデジタルツールを活用したコミュニケーションスキルを習得します。	2・前	30			○		○				○		
36	○		和装着付・作法演習	日本人の美意識を育んできた着物文化、民族衣装である着物を通じて和の文化を体感します。着物の着付け、和の立ち居振舞を知ることで、特別な日の花嫁、親族の装いの手助け、アドバイスができるようになります。	2・前	30			○		○				○		
37	○		ウエディングパーティ演習Ⅰ	学生が相互にかつ積極的にコミュニケーションを取り合い協働することの大切さを学び、ウエディングパーティの迎賓から送賓までを再現、ウエディングパーティサービスをシミュレーション形式で習得いたします。	2・前	30			○		○				○		
38	○		社会人基礎力Ⅱ	社会に出て、サービス業や接客業など仕事をする上で必要となる各種社会人基礎力を、ワークを通じて実践的に習得します。さらに職場の人間関係を円滑にするため、上司やお客様との会話を想定しながら、さまざまなケーススタディに取り組み、コミュニケーション能力の向上を目指します。	2・後	30			○		○				○		
39	○		ダイバーシティ&インクルージョン演習	労働力不足やグローバル化への対応、日本型雇用慣行の破綻、世代間格差などの問題に対する解決策として、ダイバーシティ経営が期待されている一方で、「とりあえずダイバーシティ」の企業が多いことが課題である。様々な事例を知り考えることで、真の目的であるインクルーシブな組織に変えていくやり方を習得する。	2・後	30			○		○				○		○
40	○		ウエディングパーティ演習Ⅱ	実際の料理を使用し、ウエディングパーティサービスをシミュレーション形式で習得します。学生相互のコミュニケーションについても、ウエディングパーティ演習Ⅰと同様、積極的に取り合う意識を持ちます。	2・後	30			○		○				○		
41	○		ブライダルセールス	ブライダルセールスは単なる商品販売に留まらず、お客様の心の不安を取り除き、夢や期待に応えるために的確な提案、助言を行います。本科目ではブライダルマーケティング業務において、特に重要な役割を担う新規セールスについて演習形式で学習します。	2・後	30			○		○			○			
42	○		フラワーアレンジメント	ブライダルの演出に欠かせないフラワーアレンジメントの最先端の知識とテクニックを学び、シーンに合わせた花のセレクトや、個性の表現方法を身につけ現場レベルでの知識を養います。	2・後	15			○		○				○		○
43	○		ブライダルカウンセリング演習	業界人として、どの職種に就いても必要な「カウンセリング力」を身につけます。お客様の心に深く寄り添い、正確にお話しをお伺いする基本的な「傾聴力」の定着も図るとともに、言葉にできないご要望などもお伺いできる「質問力」を高めます。	2・後	30			○		○				○		
44		○	ブライダルコーディネーター技能検定特講Ⅰ	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する国家検定「ブライダルコーディネーター技能検定3級」合格を目指します。本番の試験を想定した模擬テストを実施し、ブライダルコーディネーターに必要な知識の習得を目標とします。	1・後	30			○		○				○		
45		○	ブライダルコーディネーター技能検定特講Ⅱ	日本のブライダル業界は、時代とともに個性化・多様化が進んでいます。お客様のさまざまな要望に応えられるプロフェッショナルとなるために、婚礼の歴史はもちろん、現場での実践に活かせるブライダルの基礎知識・用語・業界特性を理解し、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する国家検定「ブライダルコーディネーター技能検定3級」合格に必要な知識を習得します。	1・後	30			○		○				○		

46			○		ブライダルインターンシップⅡ	ブライダル業界現場におけるプランナー、スタイリスト、フラワーコーディネーター業務を通して、将来目指すべき業界で働く厳しさ喜びを体感します。また、どのような仕事も他者との協力が必要であり、1つの婚礼を成功へと導くためにスタッフ間のチームワークを高め、ブライダル関連セクションやパートナー企業と連携、協力することの重要性を学び、ブライダルに携わる者として必要不可欠な協調性を養います。	1・後	100					○		○				○
47			○		ブライダルプロジェクトⅠ	本科目では2年間の学びの集大成である卒業研究発表会に向けての研究活動の一環として、ブライダル業界を活性化させるためにそれぞれのターゲット層の現状を分析し、新たなブライダルプランの提案を行います。プレゼンテーションは後日ブライダル関連企業の方にご覧いただき、卒業研究発表会に向けてフィードバックを頂戴します。	2・前	30					○		○		○		○
48			○		セレモニーマネジメント	プランナー、サービス、スタイリストなどブライダルの接遇プロフェッショナルとして、コミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力、マーケティング能力を習得します。	2・前	30					○		○		○		
49			○		上級婚礼マナー演習	ホスピタリティーの意義を踏まえつつ、細やかな配慮や臨機応変な対処ができる様に導き、自らのふるまいを顧みつつ、自己醸成を図り、食の場面を切り口に異文化理解を深め様々な文化対応が図れる力を養うものです。	2・前	30					○		○			○	○
50			○		ブライダル接客ロールプレイングⅠ	ドレススタイリスト、サービスマンの実践ロープレを行うことで現場で働きだしたときに臨機応変な対応ができるようになります。さらに実際に現場に出たときに自分で考え問題を解決する力が身につくようになります。	2・前	30					○		○			○	
51			○		ブライダルコーディネート技能検定特講Ⅲ	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する国家検定「ブライダルコーディネート技能検定2級」合格を目指します。本番の試験を想定した模擬学科試験および模擬実技試験を実施し、ブライダルコーディネートに必要な知識と技能の習得を目標とします。	2・後	30					○		○			○	
52			○		ブライダルコーディネート技能検定特講Ⅳ	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する国家検定「ブライダルコーディネート技能検定2級」合格に必要な知識を習得します。	2・後	30					○		○			○	
53			○		ブライダルコーディネート技能検定特講Ⅴ	本科目は2級学科試験合格者を対象に、ブライダルコーディネーターに必要な「コミュニケーション能力」「プランニング能力」「プレゼンテーション能力」「オペレーション能力」という4つのスキルを習得し、公益社団法人日本ブライダル文化振興協会が実施する国家検定「ブライダルコーディネート技能検定2級実技試験」の合格を目指します。	2・後	30					○		○			○	
54			○		ブライダルプロジェクトⅡ	本科目ではブライダル関連企業より業界各企業が直面する課題や問題をいただき、ブライダルプロジェクトⅠに引き続き、課題解決策を各クラスで研究し、最終回にはブライダル関連企業の方々に向けて卒業研究発表会を実施します。2年間の学びの集大成として自分たちの全ての知識を結集し、「ブライダル業界活性化プロジェクト」に取り組みます。	2・後	60					○		○		○		○
55			○		ブライダル接客ロールプレイングⅡ	プランナーの実践ロープレを行うことで現場で働きだしたときに臨機応変な対応ができるようになります。さらに実際に現場に出たときに自分で考え問題を解決する力が身につくようになります。	2・後	30					○		○			○	
56			○		上級和装着付・作法演習	婚礼の形態は時代と共に多様化しています。高度な専門知識と優れたセンスが求められています。様々な事柄に対処しながらお客様が結婚式、披露宴のセレモニーで素敵に美しく輝いて頂くための的確なアドバイスのできるように、日本人の美意識を育んできた着物文化を通じて和の文化を学びます。	2・後	30					○		○			○	
57			○		ブライダルビジネス実務	ブライダルビジネスに必要な知識の習得に加えて、実際の接客ケースを想定し、お客様対応に必要な柔軟性と応用力を習得いたします。	2・後	30					○		○			○	
合計							57	科目	1730 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：2年以上在学し、所定の課程を修め単位を修得した者		1学年の学期区分	2期
履修方法：各科目ごとの試験の合格をもって履修したものとする（留意事項）		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。